

第 6 号の内容

【第1面】

主催講座の開催報告

・はじめてのボランティア講座

〈サラリーマン・OL・学生編〉

・助成金チャレンジ講座

〈プロが教える申請のコツ〉

【第2面】

・NPO って何だろう！？

・万里一空(コラム)

【第3面】

・地域ではぐむ

子どもたち

【第4面】

・お知らせ！

情報コーナー

映画・ビデオ・DVD

上映会

ボランティア活動先

一覧

情報コーナーの

おすすめ本！

・編集後記

【主催講座の開催報告】

○はじめてのボランティア講座



講師の森本のり子さん



講座の様子



1月23日(水)にきょうとNPOセンターの森本のり子さんを講師にお招きし、「はじめてのボランティア講座～サラリーマン・OL・学生編～」を開催しました。タイトルの効果もあり、現役世代や若い方に参加していただきました。

まずアイスブレイクとして、参加者間で話し合って思いを共有していただいた後、ボランティアやNPOなどの市民公益活動について分かりやすく説明していただきました。後半は、実際の事例を用いた説明を行っていただきました。講師の方の大変分かりやすい説明もあって、参加された方は大変興味深そうに耳を傾けておられました。若い世代の市民公益活動への思いが強く伝わってきた講座となりました。

○助成金チャレンジ講座



講師の法橋聡さん



グループワークの様子



疑似プレゼンの様子

2月24日(日)には、近畿労働金庫地域共生推進部長の法橋聡さんを講師にお招きし、「助成金チャレンジ講座～プロが教える申請のコツ～」を開催しました。定員を超える申し込みがあり、参加された30数名の方たちは熱心に受講されていました。

いつもは助成金申請の審査をする立場におられる講師からは、NPOを支援する立場からの現実味や臨場感あふれる“コツ”を伝授していただきました。受講生の皆さんからは「一言も聞き漏らすまい」という熱気が伝わってきました。

後半は4つのグループに分かれ、グループワーク。初めて会ったメンバー同士で、講師から与えられた課題に沿った事業計画案をまとめ、疑似プレゼンへとつなげました。(疑似プレゼンの審査員役は法橋さんと他グループから選出されたメンバー)

どのグループからも、初対面のメンバーで1時間ほどの間に作り上げたとは思えない中身のある事業内容のプレゼンが展開され、全部のグループが厳しい審査員の目に適い、見事に助成金を獲得するという体験ができました！

受講者からは、審査員の立場に立つことで、自分たちの事業計画を客観視でき、貴重な経験となったという感想が寄せられ、また、ボランティアやNPOなどの市民公益活動をされているグループ同士の交流ができたという意味でも、大変意義深い講座になりました。

NPOって何だろう!?

活動の多彩さは、 NPOの強み

NPO活動は、多彩な活動を行えるという特色があります。自分たちが気づく課題に、自分たちの得意な方法で対処するので、活動全体としては、きわめて多彩になるのです。

行政は、法・規則の下で「公平・平等」を原則としている「全体の奉仕者」です。あらゆる市民に対して公平にかかわりますので、自分の関心にしたがってテーマや課題を選ぶことはできません。そのようなことをしては、全体をカバーできず、公平性を欠いてしまうからです。

しかし、めまぐるしく変動する現代、「全体の奉仕者」である行政だけでは、多様化する市民のニーズに応えることは難しくなってきました。それに対してNPOでは、どのようなテーマや課題に取り組むかを、自分たちで決



めることができます。特に関心があるテーマ、あるいは得意とするテーマについて集中的に取り組むことができるわけです。

例えば、身寄りのない一人暮らしのお年寄りが、「毎日散歩に出かけたいが、一人では不安なので同行してほしい」という願いがあっても、介護保険法のサービスでは対応できないときがあります。しかし、NPOでは、「どうにかしてあげたい」と思えば一緒について行ってあげることもできます。災害時に行政は、まずは災害規模の全体把握に務めますが、NPOであれば、目の前で困っている人がいれば、すぐに手を貸すことができます。

こういった、個々のニーズに個別に対応できる柔軟さや、状況に応じてすぐに動ける機動力を発揮できるのも、多彩な活動を展開できるNPOならではの強みです。

万里一空

第6回

「向き合うことで得られるもの

～ボランティアコーディネートの現場から～

ボランティアコーディネーター 丸山 智史

「2013年度グッドデザイン賞」の募集が始まるようだ。デザインそのものを評価する一般的なコンクールとは異なり、時代の感性やライフスタイルも審査結果に反映される点に興味深く、注目している。

昨年度は、「インタラクション(相互交流)」という視点、つまり「お互いを豊かに広げあうことができる関係性が構築されているか。より根本的な意味での相互作用性が問われる」ことが審査のポイントだった。地域内でのつながりが弱まり、個人の孤立が進む社会にあって、人と人との結びつきを求める欲求が高まっていることの表れだろうか。

熱意やミッションを伴ったボランティアやNPOの実践は、それ自体がインタラクションな営みではないか、と感じている。ボランティアでは、対象となる人や社会に働きかけることで、対象に何らかの影響を与える。その過程で生じる相互交流によって、ボランティア自身も少なからず刺激を受けることもあり、相互に影響しあっている。

ボランティアコーディネートをしていると、ボランティアをすることによって心や行動が動かされる人々と出会うことも少なくない。「ボランティアをしたとき『ありがとう』『また来てね』と言われて嬉しい」「地道な活動が、世間でも知られるようになった。あきらめずにやっていたよかった」という声を聞くことがある。対象となる人や社会との関係作りがうまくいかず悩むことがあっても、活動を振り返るきっかけとする。ときには自分自身を見つめなおそうとする姿勢を見せてくれることもある。

彼らが感じた気持ちの豊かさや行動の変化は、人や社会と真摯に向き合う姿勢から生まれるものだと思う。インタラクションなボランティアの姿勢が、人と人との関係が希薄化していく時代の流れを逆転させてくれることを期待している。



地域ではぐくむ子どもたち

「輪」・「話」・「和」
育てよう地域の



二名中学校区地域教育協議会のみなさん

○ 活動の拠点づくりからのスタート

活動は5年前の拠点づくりから始まりました。現在の協議会の活動場所は学校の正門に入ってスグの小さな建物です。その建物は、かつて部室などに利用していたもので、コーディネーターの方々はまず、会議や作業を行なう活動拠点になるよう改装に力を注がれました。「人が訪れやすい雰囲気にするため、畳を片付け、カーテンをつくり、学校やボランティアの方にも協力してもらい整備しました。プレハブと呼んでいたこの建物の愛称も広く募集して『スマイリー』に決め、その看板を美術部の生徒が作りました。」そう話されるコーディネーターの方々には活動への充実感が漂っていました。



協議会の活動拠点『スマイリー』



寺子屋プロジェクトによる学習支援

○ 寺子屋プロジェクト

地域の方に子どもたちの学習を支援してもらう事業が「寺子屋プロジェクト」です。二名中学校では、学習支援ボランティアとして約100名の方々が夏休み・冬休みの宿題、普段の学習などに協力しています。一口にボランティアといっても、元大学教授や高校教師、企業の海外駐在員であった方、外国人の方など実に多様な方たちです。

この事業を通して、子どもたちからは「分からないことをすぐに教えてもらって心強かった。」など好評を得ており、またコーディネーターは「それぞれ異なる知識・経験を持つボランティアの方々と交流もでき、地域のつながりや絆が生まれてきた。」と語られていました。地域ぐるみの温かい寺子屋活動が、地域のつながりを一層深めています。

○ 柿プロジェクト

校区内には田畑に柿の木が植えられているなど、大和の原風景がまだ残っており、その柿を活かした新しい学区ブランド製品をつくるのが『柿プロジェクト』です。

この事業では、子どもたちやボランティアの方々がともに収穫から加工までの工程を行いながら、渋柿の活用法について考えます。つるし柿づくりの体験、ボランティアが作った竹竿を使っての子どもたちによる収穫作業、柿渋を採取した後の搾りかすを使ったクッキーづくりなど、活動は発展しました。また、今年はその柿渋で渋染め体験を計画されるなど、夢は膨らんでいます。

「将来は、柿クッキーや渋染めのハンカチを子どもたちに販売してもらうようにしたい。ものをつくって売る経験をすることで、将来の一助となってほしい。」と、子どもたちの成長を手助けしようとする協議会の熱心な活動が続いています。



竹竿で柿の収穫を行なう子どもたち



地域の人も参加して
渋柿の皮めくり



柿プロジェクト
発表時のブース

○ 広がる地域の輪

「大人の働きかけに、子どもたちが熱心に応えてくれる。」と、協議会の大木会長はうれしそうに語られていました。

地域の見守り活動では、子どもたちが冬の寒い中、ご協力くださるボランティアの方々へ、心を込めたお礼メッセージ付きのカイロを渡し、その気持ちがボランティアの方の感動を誘いました。また、柿プロジェクトの発表の場として柿クッキーを配布したときも、ブースの看板やアンケートなど、子どもたちが立派なものをつくり、周りを驚かせました。

「期待に応えてくれることで、活動が生き活きとし、そこから地域のつながりが生まれて、地域が元気になる。」など、子どもたちを育もうとする地域の輪は着実に広がっています。



お知らせ！情報コーナー

映画・ビデオ・DVD上映会

総勢170名ものボランティアの力を結集して制作された、静止画アニメ「大和の風」を上映し、奈良の歴史や観光ボランティアに関心がある方々をはじめ、たくさんの方にお越しいただきました。



今後とも、ボランティアに関するビデオ・DVD等の上映を毎月第2・第4土曜日(変更の場合あり)に行う予定ですのでみなさまのお越しをお待ちしております！

毎月25日はボランティア入門講座



当センターでは、平成25年度は、毎月25日に「ボランティア入門講座」を開催します。4月～6月の開催日時は以下の通りです。ぜひ、ご参加ください！

日時：4月25日(木) 18:30～20:30

5月25日(土) 13:30～15:30

6月25日(火) 13:30～15:30 ※毎月同じ内容です。

場所：ボランティアインフォメーションセンター会議室

締切：各開催日の1週間前まで

申込：講座名、開催日、氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、電話かFAX・Eメールでお申込み下さい。

ボランティア活動先一覧春号



ボランティアをしたいけど、自分に合うボランティアがあるかな？と探しておられる方はさまざまなボランティア募集情報を取り上げておりますので、ぜひ一度ご覧下さい。

※ボランティア活動先一覧春号は、当センター他市内公民館・会館等に設置しています。また、奈良市ホームページにも掲載しています。

情報コーナーのおすすめ本！



・「カタリバ」という授業

聞き手：上阪 徹
話し手/今村久美・竹野優花・NPO 法人カタリバ
出版社：英治出版

「ナナメの関係」とは！？

高校生にたくさんの「きっかけ」を運び続けるNPO法人カタリバ。団体として運営が軌道に乗るまでの様々な苦労や、今村代表の教育への熱い思いを綴った本です。教育関係のボランティアの方はもちろん、団体運営に関心がある方にもおすすめです！



奈良市ボランティアインフォメーションセンター

連絡先

〒630-8122

奈良市三条本町13番1号

はぐみセンター1階

開館時間：9:00～21:00(月～土曜日)

9:00～17:00(日曜・休日)

休館日：年末年始

TEL:0742-93-8435

FAX:0742-34-2336

MAIL:volunt-info@city.nara.lg.jp

URL :http://www.city.nara.lg.jp



奈良市ボランティアインフォメーションセンター

検索



※駐車場の駐車台数には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用下さい。(満車の場合は、周辺の有料駐車場をご利用いただくようお願いします。)

【編集後記】

来月(4月)からセンターも3年目を迎えます。皆様のご協力のおかげで徐々に運営の形も出来上がってきました。これからも、市民の皆さんや団体の方々に必要なとされるセンターとなるように飛躍する3年目にしたいと思います。